

景気ウォッチャー調査は景気の現状把握や将来予測に役立てるために用いられる指標です。北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象（三重県は東海に属する）に、家計動向、企業動向、雇用など代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映できる現象を観察できる業種の中から選定した2,050人に質問し、調査結果を内閣府が集計・分析して毎月発表しています。

現状判断DIは現況を、先行き判断DIは2~3ヶ月先の見通しを示します。DIの数値が50であれば「横ばい」を表し、これを上回ると「景気が良い」、下回ると「景気が悪い」と感じる人が多いことを示します。

東海地方 現状・先行き判断DIの推移



◆東海地方 2016年2月 景気判断 特徴コメント (抜粋)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	不変	・宿泊客は春休みの予約が好調で、例年よりもハイペースであるが、宴会需要は依然として不調である（都市型ホテル）
		やや悪	・2月は寒い日も多く、客足も鈍い。受験シーズンの関連商品や春に向けた旅行雑誌等には動きもあるが、売上は減少している（その他専門店[書籍]）
		やや良	・海外特選ブランドや時計等の高額品の需要は根強い。春物衣料の動きは、気温が低く本格化にはまだ遠い状況である（百貨店）
	企業動向関連	不変	・3ヶ月前からの低調な動きが、今月に入っても続いている。今のところ今年度中に回復する見込みはない（輸送用機械器具製造業）
		やや悪	・為替相場、株価や原油価格等が不安定な影響で、受注量、販売量共に低調である。景気はあまり良くない（パルプ・紙・紙加工品製造業）
		やや良	・寒波の襲来もあって冬物商材の動きがようやく活発化している。12月までの出遅れ分をカバーするには至っていないが、ある程度は取り戻しつつある（食品製造業）
	雇用関連	不変	・本来であれば年度末に向けて右肩上がりに推移する時期であるが、大手自動車メーカーの工場一時停止の影響で、横ばいとなる（アウトソーシング企業）
やや良		・自動車業界を中心に採用数を増やす企業が増加している。ただし、次世代の自動車開発に関わる分野での求人であるため、対象となる人材は限られており、実際には要望人数を確保できない可能性もある（民間職業紹介機関）	
	その他の特徴コメント	やや良：好天に恵まれ来客数は増加している。伊勢志摩サミットを前にした景気の盛り上がりも感じられる（一般小売店[土産]） 不変：取引先の中小製造業では、燃料費や鋼材等の原材料コストが低減し、総じて利益水準の改善が続いている（金融業）	
先行き	家計動向関連	不変	・年明けから経済的に様々な不安要素があり、個人消費にマイナスの影響を与えている。富裕層が対象となる高額商品の動きは悪くないものの、百貨店の売上で高いシェアを占める中間層には、購買意欲の落ち込みを強く感じている。この傾向は、まだ数か月は続く（百貨店）
		やや悪	・主力商品のたばこの値上げを控えており、それ以外の弁当やドリンク等に使う金が減ってくる。工場の近くの店では、工場の稼働状況が良くないためか、売上の厳しい状況が続いている（コンビニ）
	企業動向関連	不変	・荷動きは低調であるが、原油価格が安定し燃料費を抑えているため、何とかバランスがとれている。燃料価格下落の動きが止まってからが問題である（輸送業）
		やや悪	・原油価格の動向、中国経済の減速や円高等、外部要因には企業業績や株価への悪材料が多い。景気はしばらく低迷すると思われる（化学工業）
	雇用関連	不変	・正社員採用の求人は引き続き好調である。求人案件はあるものの、要件にマッチする人材の不足が採用決定の伸びを抑える不安がある（人材派遣会社）
	その他の特徴コメント	やや良：伊勢志摩サミットのある5月に向けては、若干でもムードは良くなる方向である。今よりも経済に動きが出て、返礼品や贈答品の需要も増えればという期待を含む（一般小売店[贈答品]） 不変：今年のゴールデンウィークは大型連休を取りやすい日並びで、燃油サーチャージも低下傾向にあり、海外旅行需要に期待したいが、今のところ申込数の目立った増加はみられない。気候や株価の影響なのかわからないが、来客数は伸び悩んでいる。気候とともに客足が伸びることを期待する（旅行代理店）	